

中等・高等教育における日本語教育のアーティキュレーションの達成 —今後の支援活動・交流活動のアクションプラン—

カリフォルニア大学サンディエゴ校

當作靖彦

ytohsaku@ucsd.edu

キーワード：中等教育、高等教育、アーティキュレーション、
グローバルネットワーク、Can-do ステートメント

1. 「中等・高等教育における世界の日本語教育」の問題点

シンポジウム参加者、香港代表、梁マギー氏、カナダ代表、有森丈太郎氏、欧州代表、松尾馨氏、タイ代表、ウォラウト・チラソンバット氏と司会を担当する米国代表、當作靖彦は日本語教育グローバルネットワークが事前に行ったアンケート調査の結果を検討した。その結果、各国、各地域の中等・高等教育における日本語教育の共通の問題点として、アーティキュレーションの欠如を取り上げることにした。小論はこのシンポジウムの導入の役割を果たすものである。

Byrnes (1990)はアーティキュレーションを” the well-motivated and well-designed sequencing and coordination of instruction toward certain goals, with vertical articulation at the core of the issues” と定義づけている。Lange (1982)は” the continuity of a program throughout the length of the program” と定義している。これらの定義は縦のアーティキュレーション(vertical articulation)についてであるが、アーティキュレーションには同じプログラム内の同レベルのクラスの間、あるいは同レベルのプログラム間の横のアーティキュレーション(horizontal articulation)もある。

アーティキュレーションの欠如、それに関連した問題点、それから派生する問題点を解決することは、日本語教育の質の向上、日本語学習者の増加、日本語教育の発展のために重要であることを代表者一同認識すると同時に、それぞれの国、地域でアーティキュレーションの問題を解決することは簡単なことでないことでも意見が一致している。アーティキュレーションの欠如は、それぞれの地域、国の教育制度、国情、教育文化、社会文化、政治的背景などと複雑に結びついており、地域的な問題と言ってよい。その解決も地域ごとに行われる必要があるし、解決法も地域によって異なるであろう。しかし、アーティキュレーションの問題の解決に成功した地域、解決のために努力してきた地域の経験、知識は、現在この問題に悩み、解決を試みる地域に大いに役に立つであろう。経験と知識、情報を共有するために、日本語教育グローバルネットワークは重要な役割を果たせるであろうし、グローバルネットワークを通して、アーティキュレーションの欠如を解決していくための各国、各地域の共通した理念、

解決のための枠組み、ガイドライン、ストラテジーを話し合い、発信し、アーティキュレーションの問題解決をともに進めていくことは非常に有意義なことであると代表者全員考える。

2. アーティキュレーション達成を妨げる要素：米国の場合

米国では1980年代の日本経済発展とともに、中等教育での日本語教育がさかんになり、中学校、高校で日本語を学習した生徒が大学に入って日本語学習を続けようとするケースが増えるようになる。当初は、高校で4年間日本語を学習してきた生徒が大学の1年生の1学期目にプレースされるケースが多く、1学期目は単に高校で習ったことの復習に終わり、2学期目には大学から日本語を学習し始めた学生に抜かれてしまうということで、日本語学習の動機付けが下がり、途中で日本語学習をやめ、高校での日本語学習をまったく無駄にしてしまうということが少なくなかった。当時は、中等・高等レベルの教師の交流はほとんどなく、中等レベルの教師はそれぞれの大学の日本語教育プログラムがどのようなゴールを持ち、どのような教育を行っているのか、また逆に高等レベルの教師は中等レベルの日本語のクラスでどのような教育が行われているのかを全く知らない、あるいはそれに全く興味を持たないということが一般的であった。情操教育の一環としての日本語教育を行う中等レベルとスキルとしての日本語教育を行う高等レベルでは、日本語教育の目的がまったく異なるので、二つのレベルでのアーティキュレーションを達成することは簡単なことではない。しかし、上述のようなことが続くと、教育に投資される資金、時間を無駄にすることになり、外国語教育界全体で無駄にされるリソースの量は社会的に無視できないという考えや学習者にできるだけ高い外国語能力を賦与することは教育の義務であるという考えが強くなり、1980年代後半から1990年代にかけて、外国語教育でのアーティキュレーション確立のための様々なプロジェクトが行われるようになった。各州が幼稚園から高校までの公立学校の教育の方針、内容を決定する権利を持つ連邦制をしくアメリカでは、国家レベルでアーティキュレーションを具体的に考えることは難しく、各地域で具体的にアーティキュレーションを考え、実行していくという方法がとられることになる。この際に言われたのは、アーティキュレーションはThink Globally, Act Locallyの原則で行われる必要があるということである。アーティキュレーション達成のフレームワークを国家全体で考え、実際の実施はそれぞれの地域の教師、関係者が、それぞれの地域に対応した方法で、アーティキュレーションを達成していこうという考えである。

このような動きの中で、最初に行われたのは、同一地域の中等レベルの教師と高等レベルの教師が直接話し合い、それぞれの教育実践の情報交換をすることであった。各地で、アーティキュレーション達成のためのモデル地域が作られ、地域の教師が集まり、情報交換をし、アーティキュレーション達成のストラテジーを考え、実行していくプロジェクトが行われた。連続したプログラムの間でアーティキュレーションを達成するという事は、単に二つのプログラムをつなげばいいという単純なものでは

ない。異種のプログラムが自分のプログラムの目的、内容をはっきりとわかりやすく表現し、教育がどのように行われ、どのような効果が期待されるかを精査し、両方のプログラムがそれぞれ変えていくべきこと、変えられるところの共通理解を得、さらにそれを実行し、結果を判断していく複雑なプロセスである。これらのプロジェクトで、アーティキュレーションが達成されれば、成果は大きい、それを達成するまでには多大の努力と時間、意識の変換、学校文化の転換などが必要であることがわかった。また、外国語学習の中心にいる学習者がそれぞれのプログラムで、何を学習し、実際にどのように外国語ができるようになるかを知る必要もあり、学習者への調査、学習者の能力評価、プレースメント・テストなど多くの要素が関係することもわかった。また、アーティキュレーションを達成するために、新しいクラスを作らなければならないこともあり、予算とも関係してくる。このようなプロジェクトの結果はADFL (1991)などに詳しく記述されている。

米国の日本語教育の場合には、このようなプロジェクトのほかに、1990年代後半のNational Standards (1996, 1999)の作成がアーティキュレーション達成に大きな役割を果たしたと言ってよい。National Standardsの作成を通して、中等レベルの日本語教師を中心したNCJLE (National Council of Japanese Language Education)と高等レベルの日本語教師を中心としたATJ (Association of Teachers of Japanese)の代表が初めて同じテーブルにつき、お互いの教育実践の状況に関する情報を交換し合い、アメリカにおける幼稚園から大学までのスタンダードを共同で作成した意義は大きい。また、National Standardsの普及運動を通して、同一の標準により教育のゴールを立て、それを一般に明らかにすることの重要性を教師に周知させることができた意義も大きい。また、そのようなゴールを達成したかどうかを測定する評価の重要性、プレースメント・テストの方法、内容についても話し合う機会ができた。

現在は各州がNational Standardsをもとに州の幼稚園から高校までの外国語教育のフレームワーク、ベンチマークを作っている、中等教育においては、内部でのアーティキュレーションがかなり確立してきていると言ってよい。

2007年にスタートしたCollege Boardが提供するAdvanced Placement Japanese Language and Culture Programもアーティキュレーション達成には大きな役割を果たしている。このプログラムは高校で大学レベルの日本語のクラスの履修を可能にし、一年に一回行われるテストで合格点を取ると、多くの大学で、入学時点で、大学の単位の取得が可能となるほか、初級のコースを飛び越えて、上のレベルのクラスに自動的にプレースされるものである。このプログラムの内容は、National Standardsの考えに基づいているほか、ACTFLのProficiency Guidelinesにより達成レベルが規定されている。日本語の場合には、テストは大学の日本語履修300時間の日本語レベルを目標としており、実際に、アメリカの大学で日本語履修300時間の学生に同じテストを行い、採点基準の作成の参考にしている。このプログラムの実施により、高校レベルの日本語教師が大学レベルの日本語教育の内容を知ることができたことでも、意義があるものである。

1980年代に比べるとアーティキュレーションの問題はかなり解決してきたと言ってもよいが、問題は完全に解決したわけでないし、大きな問題を抱える地域がまだまだ多数ある。その問題の責任は、高等教育レベルの教師にある場合が多い。大学では、個々の教師がアカデミックな独立性を持ち、自分のクラスの内容を決める権利を主張し、クラスをデザインする。クラスのデザインは個人の仕事である。一方、中等レベルでは、州のフレームワーク、学区のベンチマークなどに基づいて、ほかの外国語の教師に合わせて、グループとしてクラスをデザインすることが多い。このため、アーティキュレーションの達成の基準となりうるNational Standardsがあつたとしても、中等レベルでは使われるが、高等レベルの教師はまったく関心がない場合が多い。

また、このような個人によるクラス・デザインの権利の重視は、中等教育と高等教育の縦のアーティキュレーションだけでなく、同じレベルのクラスを複数の教師が教えている場合に、同じレベルでアーティキュレーションが欠如する、いわゆる横のアーティキュレーションの問題を作り出す。

2007年のModern Language Associationのレポートでも指摘されていることであるが、アメリカでは、最初の二年間をテニユアのない講師が教え、次の二年間をテニユア・トラック、あるいはテニユアを持った教授が教える大学が多い。この二層構造のために、同じ大学内で、アーティキュレーションがない場合が少なくない。また、せつかく最初の二年間の教育と中等教育の間にアーティキュレーションがあつたとしても、上のレベルに行くとアーティキュレーションが崩れるという現象が起こる。

中等レベルの公立学校では、教師の教育者としての説明責任が要求され、自分の教えるクラスのゴールを、具体的なアウトカムの形でシラバスに書くことが義務づけられている場合が多い。また、National Standardsの普及とともに、それをもとにゴールを書くためのトレーニングが行われていることが多い（すべてではないが）。アーティキュレーション達成のためには、自分のクラスを取ると学習者が何ができるようになるかCan-do statementsを持って記述し、それをほかの教師と情報共有することが重要である。しかし、高等レベルも含めて、シラバスを見てもクラスのゴールがはっきりしない場合が多いし、具体的なアウトカムなどをもとにゴールを書くという概念さえ持たない教師が多く、アーティキュレーションの達成のためには、この点での能力開発がまず必要である。

中等・高等レベルのアーティキュレーションの進展に貢献した上述のAdvanced Placement Japanese Language and Cultureは2014年からNational Standardsの考えをさらに反映したものとして新しくなる。これを目指して、高校と大学のモデル地区を作り、地域の教師たちが協力して、3年計画でアーティキュレーションを確立していくプロジェクトを行い、この経験をほかの地区の教師に広めていくことを進めたい。また、ATJとNCJLTは現在一つの学会になることを検討中である。初中等レベルと高等レベルの日本語教育のアーティキュレーション達成に取り組むための好機と言える。

3. グローバルネットワークができること

Brecht and Rivers (2000)は外国語を使って仕事ができるようになるためには Interagency Language Roundtableのレベル2, ACTFLのProficiency Guidelinesの Advancedレベルが少なくとも必要であると主張しているが、スペイン語やフランス語の場合でも、アメリカの大学で4年間学習してもこのレベルまで達することはないと言う (McGinnis 2003)。さらにMcGinnisは、日本語を含めた学習機会の少ない言語の場合には、スペイン語やフランス語と同じレベルに達するためには、少なくとも3倍の時間がかかると主張、これらの言語では、大学で4年間学習してもACTFLの Proficiency GuidelinesのIntermediate Lowに達すればいいほうであると述べている。日本語で仕事ができるようになるためには、時間がかかることは全世界の日本語学習者に言えることである。大学卒業時点で高い日本語能力を得るためには、大学以前から日本語を学習し、連続性のある中等・高等レベルの日本語のプログラムを提供することの重要性を我々日本語教師が自覚する必要がある、世界レベルでの日本語教育の質の向上のためにも、グローバルネットワークの活動の一つとして、アーティキュレーション達成を支援していくべきだと思われる。グローバルネットワークとして、アーティキュレーション達成のための共通原則、共通フレームワーク、また、能力測定の共通ガイドラインなどを作成し、各地域のアーティキュレーション達成のための活動を支援していくことができるだろう。すなわち、最初に述べたThink Globally, Act LocallyのThink Globallyの部分の枠組みを作り、いろいろな側面からAct Locallyを支援するわけである。アーティキュレーションはローカルな問題ではあるが、このローカルな問題の解決なくしては、世界レベルでの日本語教育の質の向上は考えられないし、日本語教育の発展はないわけである。また、アーティキュレーションのためのフレームワークに関しては、ヨーロッパのCEFRやアメリカのNational Standardsの実施の経験はほかの地域、国にも大いに役に立つであろう。また、国際交流基金の「みんなのCan-doサイト」を利用できるであろう。

上述のように日本語を使用して社会生活を営むようになるためには時間がかかるが、できるだけ早い時期から日本語を学習し、大学まで日本語学習を続けるというのもこのゴール達成の一つの方法であるが、もう一つの方法は高校時代、あるいは大学時代に日本に留学することである。留学生30万人計画の実施が叫ばれる中、この方法を取る日本語学習者の数は今後ますます増えるものと思われる。今回、本シンポジウムには日本代表が参加していないため、海外から来る日本語学習者と日本での日本語教育との間のアーティキュレーションについては全く話し合われなかったが、海外での日本語教育と日本での日本語教育との間のアーティキュレーションは実は日本語教育全体にとって非常に重要な問題である。二つの間のアーティキュレーションがしっかりすることにより、学習者の日本語学習は円滑に進み、より高い能力を持った学習者を生み出すことができるわけであるが、この面からのアーティキュレーションはこれまであまり議論されなかった。グローバルネットワークはアーティキュレーションの改善プロジェクトの中に海外での日本語教育と日本での日本語教育のアーティキュレーションの改善も焦点の一つに加えるべきであろうし、グローバルネットワークが

何らかの役割を果たせる問題であると思う。少子高齢化が急速に進む日本で、今後日本語が使える高度技術を持った海外からの人材を多く必要とする中、海外で日本語学習を始め、日本に留学し日本語能力を向上させ、本国に戻り、また日本語学習を進め、生活、仕事の中で日本語が使える人材となっていく学習者を作っていくためには、この面でのアーティキュレーションは見逃せないものである。

アーティキュレーションを確立していく上では、我々日本語教師は、カリキュラム・デザイン、レッスン・プラン、アセスメントなど教育に直接関連した知識、能力も必要であるが、アーティキュレーションはそれぞれの地域の教育体制、教育文化、教育政治と結びついており、教育に力を持った人たちに働きかけていく能力、知識、いわゆるAdvocacyの能力なしには実現できない。日本語教師はこのような政治的対応能力を身につけていない場合が多いのが現状であるし、多くの状況で、日本語教師は政治的に弱い立場にあるのも事実である。アーティキュレーションを達成するためには、日本語教師が政治力を持ったり、政治的に動くノウハウを持ったりすることが必要不可欠になる。このようなノウハウの提供、政治的な面からの支援もグローバルネットワークができることではないかと思われる。アーティキュレーションは確かにローカルな問題であるが、グローバルレベルで支援を行うことにより、ローカルの日本語教師の力を強め、アーティキュレーションの達成を円滑に行うことが可能になるであろう。

シンポジウムの際には、これらの事項を踏まえ、日本語教育のグローバルネットワークの支援活動、交流活動の今後3年のアクションプランを話し合う予定である。

参考文献

Association of Departments of Foreign Languages. 1991. The MLA's Articulation Initiative: High School to College in Foreign Language Programs.
<http://www.adfl.org/projects/articulation.htm>

Brecht, R. D., & Rivers, W. P. 2000. *Language and national security in the 21st century: The role of Title VI/Fulbright-Hays in supporting national language capacity*. Dubuque, IA: Kendall/Hunt.

Byrnes, Heidi. 1990. "Priority: Curriculum Articulation: Addressing Curriculum Articulation in the Nineties: A Proposal." *Foreign Language Annals* 23.4: 281-92.

Lange, Dale L. "The Problem of Articulation." Ed. Theodore V. Higgs. *Curriculum, Competence, and the Foreign Language Teacher*. ACTFL Foreign Language Education Series 13. Lincolnwood: National Textbook Co. 113-37.

McGinnis, Scott. 2003. Higher Education Foreign Language Needs: Student Supply & Demand. Paper read at the Global Challenges and U.S. Higher Education Conference. Duke University, NC.

Modern Language Association. 2007. Foreign Languages and Higher Education: New Structures for a Changed World. <http://www.mla.org/flreport>

National Standards Collaborative Project. 1996, 1999. National Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century. Lawrence, KS: Allen Press.